

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 4月15日

【評価実施概要】

事業所番号	1170202129
法人名	株式会社ウェルフェアシステム
事業所名	グループホームチューリップ
所在地	〒334-0056 埼玉県川口市大字峯1371 - 1 (電話) 048-291-0791
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年4月10日

【情報提供票より】(平成20年3月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	20 人	常勤 12 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	17.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階1部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (120,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1月当たり40,000円			

(4) 利用者の概要(3月24日現在)

利用者人数	26 名	男性 12 名	女性 14 名
要介護1	4 名	要介護2	8 名
要介護3	6 名	要介護4	8 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83 歳	最低 63 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	春野クリニック、けやき台歯科クリニック、さいたま記念病院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は安行の東京外環自動車道から少し入った閑静なところにあり、住宅や空き地に囲まれている。建物は3階建てで、1階部分をデイサービス、2階に2ユニット、3階に1ユニットのグループホームと高齢者住宅を有している。デイサービスとは、イベントやレクリエーションを合同で行ったりしている。敷地内の一角に畑を作り季節の野菜を栽培し、収穫した野菜を利用者と職員と一緒に味わい楽しんでいる。職員は20名中6名が男性であり、全体に元気で明るい雰囲気があり、グループホームでの仕事の魅力を捕らえ、志を持って働いている。また、利用者は穏やかで安心して日を過ごされている。開設して4年経ち、職員の異動もあったが、職員研修の必要性や地域との交流などに意欲的である。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 継続的研修の受講、鍵をかけない工夫、周辺施設の理解と協力への働きかけ等、さらなる改善への取り組みが必要であるが、すでに改善されている課題もある。具体的には、運営理念の明示、気軽に入れる玄関まわりの配慮、介護計画を利用者家族と相談しながらの作成、他4項目については改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者、フロア長は自己評価の意義を理解して取り組んでいるが、職員との話し合いが少ない。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、2007年11月に市役所、町会、家族、職員の参加で開催され、行事の取り組みや改善すべき内容について話し合われたが、その後は会が開かれていない。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 「重要事項説明書」に苦情の窓口を明記し、事業所の入口には意見箱を設置しているが、家族の意見を運営に反映させるまでには至っていない。また、家族には、利用者に変化があった時には報告している。定期的な報告がなされていないが、管理者は今後定期的な報告の必要性を考えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 小学生との交流会を行ったり、地域で開かれる敬老会やお花見に参加している。お花見では中学生がボランティアをしており、一緒におやつを食べたり、レクリエーションを行ったりしている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者様が主体となる明るい環境作りを目指しながら日々を過ごしていただく」という理念が居間、事務所に掲示されている。事業所独自の理念ではあるが、地域密着型サービスとしての理念は明文化されていない。	○	事業所独自の理念は確立しているので、今後は、地域社会との連携を踏まえた理念づくりが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「利用者様が主体」という事を職員は共有し、ことあるごとに立ち返り、実践の努力目標としている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の敬老会やお花見に参加している。お花見は中学生のボランティアとおやつを食べたり、レクリエーションを一緒にしたりして、利用者の方からも「楽しかった」との声が聞かれた。また、小学生との交流会を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で課題となった14項目は、理念の掲示や玄関まわりの配慮など、7項目の改善がみられている。今回の自己評価に関しては、フロア長を中心にミーティングで確認をする程度にとどまってしまう、十分な話し合いはされていない。	○	各評価項目について、全職員で検討し、サービスの質の向上につなげていく努力と、さらに、運営推進会議などの外部者による意見も聞きながら取り組む事が望ましい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2007年11月に市担当職員、町会、家族、職員をメンバーとして開催し、行事の取り組みや改善すべき内容について話し合いをしたが、その後実施されていない。	○	今後は2ヶ月に1回の定期的開催をし、民生委員などにも呼びかけながら継続することが望まれる。また、事業所からの情報提供や働きかけにより、広く事業所への理解が得られ、共に介護の質が向上される事を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター主催の会議で意見交換をしたり、運営推進会議に出席してもらっている。日頃は、介護認定や生活保護の利用者の相談をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者に変化があった時には報告している。定期的に個別に書面での報告がなされていないが、管理者は、今後定期的な報告をしていきたい意向である。	○	全体報告として簡単なホーム便りを作るなどして、イベントや職員の異動、入退職について報告し、金銭出納報告を含めて毎月実施されることが望まれる。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「重要事項説明書」に苦情の窓口を明記し、ホームの入口に「意見箱」を設置しているが、家族の意見を運営に反映されるまでには至っていない。	○	直接的には家族の意見や苦情は聞かれないため、面会時や折に触れ、家族の意見を聞く機会づくりを期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動の際は、敢えて利用者に告げるという事はせず、聞かれたら答えるにとどめて、出来るだけ自然体で対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部研修に参加する事は、今までの体制では難しかった為、OJTとして、全体会議の中で「職員に守ってもらいたい事」を管理者が話して意識統一をしたり、消防署に依頼して心肺蘇生の実技を学んでいる。	○	会社本部に教育研修の企画運営を依頼する、あるいは、お互いにテーマと係りを決めて勉強会を開くなど、年間計画を立て、出来るところから始める事を期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社内での系列グループホームの会議はあるが、近隣事業所との交流はない。	○	系列事業所の会議や交流を大切にしつつ、地域のグループホームの管理者会議やケアマネージャー会議・研修会にも参加して、情報交換の場を広げ学び合う事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居に際しては職員が2回家庭訪問をして、本人や家族の理解を得るようにしている。また、希望があればホームを見学してもらい、家族と相談しながら進めている。入居後は、他の利用者との雰囲気をみながら声をかけ、少しずつ馴染れ親しんでもらうよう努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者と一緒に畑仕事をしながら、「採れた野菜は感謝して頂き、不要のものは、土に返すんだよ」などと教えられたり、物を無駄にすると「もったいない」と指摘を受けながらの共同生活を楽しんでいる。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、個々の利用者から話を聴き、その人の思いを知りたいと努力しているが、希望や意向を把握するのは困難な状況である。</p>	○	<p>利用者の思いの把握は困難なこともあるが、これまでの生活の様子や利用者の全体像を大切に、職員が情報を共有することで、思いの伝えられない利用者の気持ちや意向をより良く汲み取れる介護を期待したい。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画の立案前に、本人、家族の意見を聴き、希望を入れて作成している。また、作成した内容について説明し、家族から承諾のサインを貰っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>計画実施期間を3～6ヶ月として、見直しをしている。また、計画の変更が必要になった場合は、適宜、見直しを行い現状に即した内容としている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入所希望前に系列のデイサービスやショートステイを利用することができる。また、併設のデイサービスとの合同のレクリエーションやイベントを楽しんでいる。なお、外食などのお出かけには、車椅子対応が出来るデイサービスの送迎車を使用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所には提携している内科医があり、月2回の往診がある。しかし、入所前からのかかりつけ医を希望する利用者は、自由にそちらを受診している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の指針」が会社本部から示されているが、現在、対象者がいない事もあり、まだ職員とも話し合いをもってはいない。	○	会社の方針を基に、本人、家族の意向を段階的に確認しながら、かかりつけ医、訪問看護師や管理者、職員と充分話し合っ、個別に方向性を定め対応していく事が望まれる。
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居契約書にある守秘義務を守っている。トイレ誘導の声かけやプライバシーに関わる事は、他の利用者にわからないよう対処している。また、記録類は事務所の戸棚に鍵をかけ保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者を主体とし、利用者間の調整を図りながら、一人ひとりのペースを大切にしている。職員は利用者の行動を良く観察し、その時々タイミングを逃さず支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ほぼ調理された外注の食材を活用し、キッチンで温めたり、個々の利用者に合わせてきざみ食にしたりして配膳している。職員は食事介助をしたり持参のお弁当と一緒に食べながら会話を楽しみ、食後は利用者が率先して洗い物や食器拭きをしている。時には、餃子をつくったり、畑で採れた野菜を調理して楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	通常は3日に1回の入浴であるが、希望すれば毎日でも入浴可能である。入浴したくない利用者については、職員を替えたり、時間をおいたりしながら、タイミングを見て声をかけ誘導している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、食器洗い、食器拭き、テーブル拭き、洗濯物干し等、役割をもって生活している。また、職員は、洗濯物をたたむ、モップかけ、金魚の水槽の水づくり、草取り、ゴミ捨て、落ち葉拾い等、多彩に利用者の個別支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気であれば、中庭で外気浴をしたり、庭で体操をしたりしているが、日常的に外に散歩にでる事が少ない。	○	事業所内にとどまらず、天気の良い日は、なるべく毎日でも戸外を散歩する事が望ましい。おおげさに考えずに希望者を募って、10分、20分、30分コース等決めて、臨機応変にゆったり散歩の楽しみを継続する事を期待したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出入り口及び居室のベランダ側のドアを施錠している。そのため職員は鍵を携帯しながらの勤務である。施錠については、前2回の評価でも取り上げられていたが、話し合いがされていない。	○	安全性を優位にする事での施錠が当たり前になってはいないか、利用者への抑圧感をもたらしてはいないかなど、家族や職員と折に触れ話し合う過程を大切にしたい。利用者の思いや介護者の心の痛みを共有し、それぞれの気づきの中で、施錠の時間帯や鍵をロック式にする等、小さな事から試してみる事が望まれる。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の火災訓練を消防署の協力を得て実施している。職員が2人1組で腕を交差させ、模擬利用者に乗せての救出訓練を事前に練習したりしているが、地域の人々の応援体制がない。また、夜間を想定した訓練はしていない。		3階建てで住宅が隣接している事もあり、地域の人々との連携が重要と思われる。普段から地域に働きかけ、運営推進会議で話し合いながら、地域の協力が得られるようにする事が望ましい。また、職員の少ない夜間を想定したシミュレーションも今後の課題である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
想定					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は1,600カロリーで、ほぼ調理された外注の食事を活用している。個々に応じて食事や水分摂取量の記載をし、利用者の状態に応じてきざみやミキサー食にして勤めている。また、希望に応じて外食を取り入れる事もある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや浴室はきちんと片づいており清潔である。居間は一部畳になっていて、散在する各テーブルには、庭で咲いた花が活けられ、ゆったりとしたスペースがある。どのユニットからも中庭の大きな鉢植えの季節の花々が見えて、明るい雰囲気をかもしだしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッド、整理だんす、ロッカー、シンクが設置されている為使い勝手が良い。中には、フローリングの上に絨毯を敷き、座椅子や3段引きの物入れ、テレビ、思い出の品、写真、手づくりの装飾品などが置かれくつろいで暮している様子が伺える。		